

オープンソース・バイオテクノロジーについての考察

内田 有哉

北海道大学 理学院

知的財産権は研究開発や産業を活性化させるものであり、製薬ビジネスなどでは特に重要な位置を占めている。しかし、TRIPS条約に基づく知的財産制度では、世界の食料自給と公衆衛生に著しい悪影響を及ぼす危険があり、また、知的財産権による知識の私有化が過度に進むと、様々な研究開発を阻害する事にもなる。こういった弊害を回避するために、ソフトウェアの分野ではオープンソース・ライセンスが広く使われている。そして、このオープンソース・ライセンスをバイオテクノロジーの分野でも活用する事する試みが始まっている。今発表では、バイオテクノロジー分野でのオープンソースが持つ様々な利点や、社会的影響、そして今後解決すべき課題などについて考察する。

Consideration of open source biotechnology

Yuya Uchida

Graduate School of Science Hokkaido University

The intellectual property right activates the research and development and industry. It is especially important in the drug industry. However, there is a possibility to exert a very bad influence for the food self-support and the public health of the world in the intellectual property system based on the TRIPs agreement. The system comes to obstruct various research and development if the privatization of knowledge by the intellectual property right increases very much. The open source license is widely used in the software field to evade this bad effect. Someone begins to use this open source license also in the field of biotechnology. Various advantages of open source in the biotechnology field, the social influences, and problems that should be solved are considered in this report.

オープンソースという概念をバイオ分野に持ち込む事によって、研究開発の促進、研究開発費の削減、それによる製品の価格抑制、といったメリットがある。

現在の多くの研究者や経営者が特許権を得ようとして躍起になっている。そして、それは特許権の乱立する社会を生み出しつつある。誰しもが自らの特許権を主張し、その使用に高額の使用量や研究の排他権を行使する場合、研究者が研究をしようとしたとき、いくつもの特許権に研究を阻害されることとなる。現在バイオ分野でもこういった現象が起きつつある。これを回避する考えとして、バイオ分野にオープンソースの考えを導入する事で解決の糸口が見えるかもしれない。

また、過剰な特許権の使用料支払いは、最終的に製品の価格に反映される。それは様々な影響を与えるが、特にアフリカにおける薬価への影響は極めて深刻である。現在アフリカにはエイズが蔓延しており、その改善に国連をはじめ、様々な機関が活動しているが、資金が不足している。そのことを考えると、僅かな薬価価格の抑制が、多くの命を救うこととなる。

しかし、オープンソースの考えは、利益を追求する企業には受け入れられず、高い評価を得られない危険性がある。加えて、ソフトウェア分野とバイオ分野の違いに対する懸念もある。さらに、オープンソースはなんら金銭的な報酬をもたらさないために開発者にインセンティブを持つことができるかという問題もある。

こういった問題は当然考えうるが、昨今の経済構造の変化、バイオ産業の特徴、ソフトウェアのオープンソースにおける前例などから、決して不可能なことではないことが分かる。